



京田辺市「ゼロカーボンシティ」宣言

～2050年二酸化炭素排出量実質ゼロへの挑戦～

地球温暖化や気候変動問題は、世界規模で対応が求められる地球上の全ての生き物にとって避けることのできない、喫緊の課題です。近年、全国各地では、被害を及ぼす猛暑や集中豪雨、台風の巨大化等による自然災害が頻発・激甚化しています。こうした自然の猛威は、私たちの生命や暮らしを脅かす状況が身近に迫っていることを示し、もはや「気候危機(非常事態)」と言うべき極めて深刻な事態であります。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2度未満とする」目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表された IPCC (国連の気候変動に関する政府間パネル) の特別報告書においては、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

国は、この目標達成に向け、脱炭素で持続可能な社会への転換を実現するためには、これまでの枠組みにとらわれない社会的及び経済的なシステム全体の転換が早急に必要であるとして、2020年に「2050年までに国内の二酸化炭素など温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする」ことを宣言するとともに、地方自治体等にも参画が促されたところです。

本市においても、国際社会の一員として、「緑に包まれた美しいまち」京田辺を次世代につなぐため、2050年までに市内の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することをここに宣言し、市民、事業者、市が一体となって、その実現に向けた取組みを推進します。

令和3年(2021年)2月12日

京田辺市長

上村 崇